

## 【多元文化論講座・後期】

◆科目名：異文化接触論演習 b

Seminar on Intercultural Relations (b)

◇概要：この授業の目的は、西欧近代の地球規模での展開の諸相を批判的に検討することに基づいて、他者表象を分析することにある。

The aim of this course is to analyse the representations of others, based on the critical examination of the development of the modern West on a planetary scale

◇担当教員：田所光男

TADOKORO Mitsuo

◇開講時限：後期月曜 1 限

◇教室：(後日公表する時間割表で確認して下さい)

◇目的・ねらい：諸文化の比較研究における基礎的理解力を確保し、修士論文・博士論文を執筆するために応用力を高める。また、この分野で研究を遂行し、成果発表をするための実践力を養成する。今期の授業の中心は、各自の関心に応じて、異世界(異文化・異民族・異人種、等)の表象を批判的に考察することに置かれる。

◇履修条件等：異文化接触論演習 a を履修しておくことが望ましい。

◇講義内容：

### 1) 論文批評

〈いい論文〉、〈よくない論文〉、とはどういうものかをまず理解する。特に、論文作法における、a. 絶対にやってはいけないこと、b. 最低限やるべきこと、c. こうするとよくなること、などを、実際の例にあたって考察する。ここで取り上げる論文は、皆さんにとっての当面の目標である、国内の雑誌に掲載された大学院生の査読論文である。

### 2) 異世界の表象の考察

①クロード・レヴィ＝ストロースの『構造人類学』や『人種と歴史』、またエドワード・サイードの『文化と帝国主義』、『オリエンタリズム』などを参照しつつ、それぞれの関心のある、異世界表象テクストを選び、それについて、批判的に考察する。

②受講者は、各自の選択したテーマで、口頭発表を行う。テーマの選択にあたっては、個別に田所と相談する。発表は、45分から60分程度のものを準備する。

◇教科書・参考書等：教科書は使用しない。授業に参加するために必要な文献は、授業の中で指示する。

◇授業期間中の課題：

1) 論文批評担当回までに、論文を読み込み、レジュメを作成する。

2) 選択したテーマでの発表担当回までに、文献調査と、その読み込みを行い、詳細なレジュメを作成する。

3) 担当しない回では、あらかじめ与えられる基本文献について、読み込みを行い、ディスカッションポイントを考える。

◇成績評価の方法：以下の3点から総合的に評価する。

1) 論文批評(おおよそ30%)。

2) 各自の選んだ、異世界の表象テーマで資料を準備し口頭で発表を行う(おおよそ60%)。

3) 授業で行われる発表後の質疑への参加(おおよそ10%)。

◇オフィスアワー：必要に応じていつでも、が原則です。電話・メールなどであらか

じめ連絡してください。

◇連絡先：tadokoro@cc.nagoya-u.ac.jp

内線 5311

文系総合館 7 階 707 号室